

[公益5] 大学教職員の職能開発及び大学教員の表彰

5-1 情報通信技術を活用した優れた授業研究の評価と表彰

<事業計画>

教育改善に ICT を利活用する FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動の振興普及を促進・奨励し、優れた授業研究の選考・表彰を通じて、学修者本位の教育の実現、大学教育の質の向上を図るため、文部科学省の後援を受けて、国立・公立・私立の大学・短期大学の教員を対象に、オンライン形式で「ICT 利用による教育改善研究発表会」を実施する。

<事業の実施結果>

「ICT 利用教育改善発表会運営委員会」を継続設置し、2024 年(令和 6 年)5 月 18 日、7 月 27 日に平均 9 名が出席して 2 回開催し、「ICT 利用による教育改善研究発表会」を実施して 1 次選考を行った。その後、9 月に 2 次選考を行い、優れた教育方法を選定・評価し、第 41 回臨時総会(令和 6 年 11 月 29 日)で表彰した。以下に活動状況を報告する。

(1) 発表者の募集

前年度の運営委員会において発表募集要項を検討し、昨年に引き続きオンライン方式の開催とし、アルカディア市ヶ谷(私学会館)を配信会場するとともに、以下の点について確認を行い、改めた。

- * 発表会論文の教育改善の目的・目標に「生成 AI を活用した教育方法」を追加変更するとともに、授業概要と教育改善の内容(問題の所在例)に「生成 AI を使用したレポート提出」、研究の目的・目標例に「生成 AI を活用したグループ学修」を追加変更した。
- * また、発表会論文の真正性について、生成 AI などによる論文作成を防止する手段として、「発表会論文に記載の内容は実際の授業実践に基づくものとする」ことを追加変更した。
- * 発表要項の発表会論文の真正性について、「発表会論文に記載の内容は、実際の授業実践に基づくものとします。」ことを追加変更した。
- * 発表者は、「発表内容に著作権、肖像権、プライバシーを侵害するコンテンツが含まれるかどうか」について確認し、必要な場合、コンテンツ使用に関する許諾等を行った上でメールにより、許諾回答することを確認した。

(2) 発表者の選考

① 5 月 18 日の運営委員会で 28 件の応募について書類選考を行い、28 件の発表を確定した。その後、1 件の辞退があり、最終的に 27 件となった。

② 1 次選考は、8 月 23 日(金)にアルカディア市ヶ谷の 3 会場において、発表者を除く 85 名が参加し、実施した。発表者は事前に発表映像を提出し、13 分間の発表映像を配信した後、質疑を 5 分間行った。質疑応答は、全員オンラインで実施した。その上で、選考規程にもとづき、選考委員が分担して発表内容及び発表会論文を精査し、以下の基準で 1 次選考を行った。

※ 教育上の問題解決を図るために、ICT 利用による教育改善の目的・目標が明瞭になっていること

※ ICT を利用した教育改善の内容と方法が明瞭になっていること

※ 客観的な評価方法により、教育改善の効果が示されていること

その結果、2 次選考の対象として 5 件を選考した。

発表内容の詳細は、巻末の 2024 年度事業報告書の附属明細書【2-5】を参照されたい。

③ 2 次選考は、9 月 21 日(土)に実施し、選考委員全員で 1 次選考の発表を収録したビデオ及び発表会論文を精査し、授賞対象を選考した結果、以下の通り、私立大学情報教育協会賞 1 件、奨励賞 1 件を決定した。

2024 年度 ICT 利用による教育改善研究発表会の選考結果

1. 発表会の目的

この発表会は、全国の国立・公立・私立の大学・短期大学教職員を対象に、教育改善のための ICT 利用による FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動の振興普及を促進・奨励し、その成果の公表を通じて大学教育の質向上を図ることを目的として、1993 年(平成 5 年)より実施しています。

日本の高等教育の向上に資することが極めて期待できる発表に文部科学大臣賞、他の教育分野での対応・展開が期待できる発表に私立大学情報教育協会賞、今後のさらなる発展・展開が期待できる発表に奨励賞を授与し、研究者の教育業績を顕彰します。

2. 選考の経緯

選考	実施日	件数
応募		28 件
書類選考	2024 年 5 月 18 日 (土)	28 件選考
発表会発表	2024 年 8 月 23 日 (金)	27 件発表(1 名辞退)
1 次選考	2024 年 8 月 23 日 (金)	5 件選考
2 次選考	2024 年 9 月 21 日 (土)	2 件授賞

今年度も引き続きオンラインによる発表会を開催し、発表者全員に 13 分による発表映像の提出を事前に求め、8 月 23 日に会場から 27 件の研究発表を配信するとともに、質疑は各発表者からオンラインで実施しました。発表会終了後、1 次選考を行い、2 次選考の対象 5 件を選考しました。発表会の視聴参加者は、発表者を除く 85 名(43 大学、3 短期大学、賛助会員 3 社)でした。その後、9 月 21 日に 2 次選考を行い、1 次選考の発表映像および発表会論文を精査して、2 件の授賞を決定しました。

3. 選考結果

文部科学大臣賞 (最優秀賞)	該当なし
私立大学情報教育協会賞 (優秀賞)	1 件
奨励賞	1 件

4. 授賞

【私立大学情報教育協会賞】

「地域課題解決型 AI 教育プログラムにおける産学連携 PBL の効果」

久留米工業大学 小田まり子 氏、河野 央 氏、春田大河 氏、
八坂亮祐 氏

【授賞理由】

地域課題解決型 PBL を活発化するために、時間と場所の制約を超えた交流の場として、メタバース・ドーム内に PBL 連携企業・自治体のラボを設け、異分野・異年齢の学内外の学生、教員、地域企業・自治体が一体となって、互いの得意分野を生かして AI 技術を用いて課題解決の実践に取り組んでいる産学連携 PBL の理想的な事例である。仮想空間に共創拠点をおくことにより、地域創生を希求する関係者がワンチームとなり、知識・技術や知見、発想を組み合わせることを可能にする創発的な PBL は、あらゆる分野での応用・展開が期待されることから、私立大学情報教育協会賞を授与するに相応しいとした。

【奨励賞】

「海外協定校連携科目群の構築による国際教育推進: Virtual Study Mobility で広げる学びの場」

明治学院大学 関口幸代 氏

【授賞理由】

協定校のハワイ大学(UHM)と 5 年にわたる連携科目群の交流があり、現地学生と共に授業を受講する協働教育を行っている。2023 年度以降は日本側の履修者のみが参加する形から、LMS と Zoom を活用し、海外協定校における教員の指導を直接受けることができ、現地の学生とオンラインライブ授業を受講する仮想留学・体験型学習環境の構築を目指した事例である。日本学生用の授業ばかりでなく、ハワイの学生が参加する専門科目も履修できるようになっており、両国間での学生交流も可能で、留学体験の一つのモデルとしても評価でき、今後の展開にも大いに期待できる。

(3) 選考結果の表彰

表彰は、11月29日(金)の第41回臨時総会で発表者を招待し、文部科学省専門教育課の森次郎企画官臨席の下、本協会向殿会長から、久留米工業大学小田まり子氏に私立大学情報教育協会賞(優秀賞)の楯と副賞(10万円)、明治学院大学関口幸代氏に奨励賞の楯と副賞(3万円)を授与した。

(4) 授賞論文の公表

本協会のWebサイトで公表した。

以上の取組みをもって、情報通信技術を活用した優れた授業研究の評価と表彰の事業は終了した。



右から文部科学省専門教育課の森企画官、受賞者の久留米工業大学小田まり子氏、明治学院大学関口幸代氏、本協会向殿会長